

フィリピン・イフガオ州アシン川流域無灯火村に小規模水力発電を設置する活動

イフガオ・アシン川流域に小規模水力発電を設置する会 事務局長 相川 民蔵

はじめに

私達の会、イフガオ・アシン川流域に小規模水力発電を設置する会(通称CACEPPI)は、1998年10月に設立されました。イフガオ州のある北部ルソンは、過ぐる57年前の太平洋戦争時における激戦地のひとつで、50万余の軍人、軍属、一般邦人、戦争の犠牲とされた現地住民の皆さんが眠る「墓標なき墓地」でもあります。特に山岳の重なるアシン川流域は日本軍の終焉の地となっており、この地で無念の死を遂げられた軍関係、一般邦人は多く、会の設立は、この地への慰霊巡拝が端緒になっています。この峪深いアシン川流域で、飢えに苦しみ、マラリヤと闘い、傍らで息絶えていく戦友や家族の死に明日はわが身と、なす術もなく敗戦を迎え生還なされた皆さんにとって、また一家の柱である父、兄、家族を失った遺族にとっては、何年経っても忘れることの出来ない地でもあるのです。私達の会はこれらの人々が中心になって設立されました。

考えて見ますと、二十世紀は戦争の世紀でありました。新しい世紀、二十一世紀が、私達の住む地球上のすべての国々の人々にとって、平和で心豊かな社会となることを願い、私達の小さな国際交流が少しでもそれに貢献できるとすれば、これに優る喜びはありません。

イフガオの地はまた、世界遺産となった、山の斜面を利用する美しい棚田でもよく知られています。ここに住む人たちがイフガオ族は先祖伝来の棚田を守り、家族総出で働きに出、天からの恵みに感謝する、昔ながらの日々を送っています。しかし、生活は恵まれたとは決していえず、生活を少しでも改善するには電気が欲しいというのが永年の現地での願いであったのです。たまたま慰霊のために訪れたアバタン村でこの願いを聞き、できることなら協力しようということでこの活動ははじめられたのです。

活動するに当たっては、アバタン村協同組合はもとより、現地フィリピンのNGOであるPRRM(フィリピン農村再建運動)がお互いによきパートナーとして、私達CACEPPIとの連携を強め、環境にやさしい小型水力発電設置事業を成功に導きました。この度の受賞は、水と電気を通じ、これら三者が協力しあって村の自立を助け、村人の望むさやかな近代化に対して手助けを行ったことが評価されたものと心から誇りに感じております。

環境を損ねない、灌漑用水利用の小型水力発電

首都マニラから2日かけ、ときには土砂の崩壊のある山道の悪路をフィリピンの足でもあるジブニーと徒歩で辿りつけるフンドアン郡アバタン村は、山深い峪間に位置し、峪底をアシン川が勢いよく流れています。このあたりは1,800m級の山々に囲まれ、このため行政の及びにくい僻地となっており、無灯火地帯がつづいています。戦争当時は、飢えに苦しんだ日本軍将兵が棚田の米を奪い、畑の芋を掘り起こし、現地住民の住居を荒し、様々な迷惑をかけた場所でもあります。フンドアン郡の人口は約7,500人、CACEPPIがこの度電灯を点すことの出来たアバタン村は9つの集落があり、75世帯、受益者数約440名となっています。



写真1 第2弾のプロジェクトがスタート
(ワンワン村高校の校庭で校長、村人との協議に入った)

このアバタン村でも山の斜面を使った先祖伝来の棚田による稲作を行っており、その景観は見事なものがありますが、稲作以外に耕作すべき作物とてなく、この地方特有の2軒、5軒と家々の散在する村々は貧しい生活を強いられております。米の自給率はおよそ60パーセント、不足分はわずかばかりの山の斜面に植えた芋（カモテ）・野菜などで補い、また出稼ぎなどによって細々と家族を養っているのが実情です。子沢山の村人にとって、子どもの勉学には特に熱心ですが、貧しい家計からの学費捻出には頭を痛めています。この生活を改善するにはまず電気があればと考えたのです。村を流れる川を利用し、その斜度を使うならば、電力を供給することが可能になるかもしれない、大きな電力は望まない、小規模なもので良いと、村の協同組合の人々がPRRMの活動家と話していたのです。しかし、その方法とそのための経費が問題でした。

先述のように、たまたまこの地を訪れた慰霊団一行がこうした考えを聞かされ、ともかく村に企画案を作って送るよう求め、帰国いたしました。早速送られてきた案を検討した私達は、生還者、遺族、この問題に関心を寄せて下さった皆さん（民族研究、水力発電、自然環境問題、現地情報などの専門家を含む）とさらに可能かどうか協議した上、アバタン村全村のための「小規模水力発電を設置寄贈する」事業に着手することを決め、CACEPPIとしての活動がスタートすることとなりました。

この事業は村人の自立を促し、村の環境を破壊することなく、村の生活の改善につながることを目的でなくてはならず、村人自身による近代化に結びつかなければ事業に取り組む意味を持ちません。この立場をCACEPPIが鮮明にしてこそ、真の日比友好に繋がる道であり、会の中心のメンバーである生還者や遺族による慰霊、現地住民への謝罪ともなります。

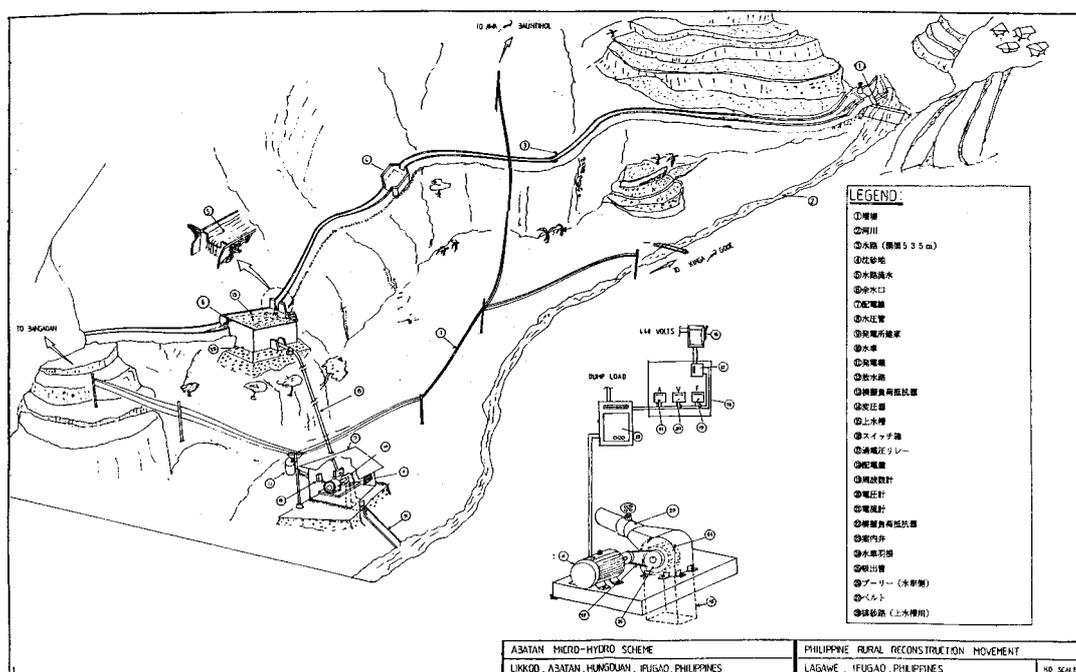


写真2 アバタン村小型水力発電設計図（青写真1/16に縮小）

フィリピン・イフガオ州アシン川流域無灯火村に小規模水力発電を設置する活動

イフガオ・アシン川流域に小規模水力発電を設置する会 事務局長 相川 民蔵

村にはアシン川の流れがある一方、手入れの行き届いた灌漑水路があります。この水路の水力を利用し、羽車を回し電気を作り出せば、経費はそれほどかからず、しかも環境を破壊することなしに、クリーンな電気エネルギーが得られ、村の大いなる福音となるでしょう。

小規模とはいえ、夜間の灯りはもとより、わずかに行われる日中の工作（木彫り）、鍛冶業の作業も能率が上がり、そして何よりも勉学を志す子どもたちが電灯の下で勉強できることになるとすれば、村はプラスの方向に向かうにちがいません。

役割を分担、村人も参加

会では、事業を順調に進めるにあたり、村、村の協同組合、現地のNGOであるPRRMときちっとした約束を交わし合うことが大切だと考えました。

まずは小型水力発電事業について、相互に協定を結ぶことから始められ、次に掲げる項目について書面をもって会へ報告することを要望し、現地側から確約、実行されました。

- (1) アバタン村小型水力発電企画
- (2) アバタン村小型水力発電設計図
- (3) アバタン村水路権利
- (4) アバタン村村議会での承認議定報告
- (5) アバタン村集落数・世帯数ならびに受益者名
- (6) アバタン村協同組合員名
- (7) アバタン村小型水力発電工事進行状況報告
- (8) アバタン村小型水力工事完成報告

発電のための工事に当たっては、本事業の性格からいって、村人がただ見ているだけといった受け身の立場にならぬよう配慮する必要もあります。

私達は、発電設備の工事をいかに進めていくかと、村の協同組合員、PRRMのスタッフらと村の庭先にテーブルを並べ、村人の大勢が見守る中、夜を徹して討議し、次の点で合意し工事に入りました。

- (1) 各家庭の電灯は60ワット2灯とし、電球は各家庭で負担する。
- (2) 発電に当たっては、電気の知識を村人に周知徹底させる。
- (3) 小型水力発電機は費用節減のため、PRRMに協力してもらい、自作する。
- (4) 電柱とその設置および電線を引く作業労働は、村の住民が無償提供する。
- (5) 水資源の大切さを村人の共通認識とするようにし、山の樹木をみだりに伐らないよう指導する。
- (6) 山地斜面に植樹を行って、将来を見つめて水源涵養林の形成を図る。
- (7) 電力の受益者は、電気料金を村の協同組合に納める。この料金は水力発電のメンテナンス、水源地の保護林・林業・環境再生のために使われる。
- (8) 水力発電は完成後放置されたままでは、継続性を持つものとはならないので、各集落で水力発電の技術を学んでもらい、多くの村人に参加を促し、最終的には少なくとも15名の地区技術者を選任し、このシステムの保守管理に当たってもらう。
- (9) 水力発電完成後には活動的手工芸者のリストを作成し、完成後の能率を、着工時のそれと比較調査をする。また児童の健康・就学・学力状況など、水力発電による効果についての検証を行う。

以上の約束により、主に村は村民による労働力を、PRRMはこのプランに関係する調査ならびに村民教育を、CACEPPIは支援金をと、それぞれが任務を分担しあうことにしたのです。

工事の進行に当たっては、CACEPPIが数度にわたり現地を訪ね、進み具合をチェックし、また完成にいたるまで三度に区切り必要経費約660,000ペソ(日本円で220万円)入金することを確認しあい、

この事業に当たってきました。会としてはこの事業に協力して下さった450名を超える人々による好意の支援金が、村のために役立つ小規模発電に確実に使われなくてはならないと考えたからです。

お祭りのようににぎやかとなった点灯式

2000年7月23日、前夜の雨もあがり、アバタンの村は竣工式に沸きました。着工時から約2年でこの日を迎える村人の皆さん、PRRMの人たち、そして私達にとって、待ちに待った記念すべき日でもあり、感激の式典です。この時期、北部ルソンは雨期で、毎日のように雨が降ります。しかし、この日ばかりは快晴となったのです。村人達が集まり出し、また近隣からも村人が噂を聞きつけ続々とやってきました。その数500人を超え、会場のアバタン村小学校の校庭はいっぱいの人々です。メインイベントである点灯場所には、OUR GRATITUDE TO THE JAPANESE COMMUNITY THROUGH THE CACEPPI ORG.(CACEPPIを通じて協力してくれた日本の皆様に感謝)と書かれた幕が張られています。式典は定刻に始まり、フンドアン郡長の歓迎挨拶、PRRMのコーディネーターであるジョヴァンニ・レイエス氏の経過報告、



写真3 いよいよ点灯（一斉にスイッチが押された中央にイフガオ州知事。クンドアン郡長、アバタン村村長。プロジェクトを進めてきた三者の団体の代表も加わる）

アバタン村村長ハナベ・アナナヨ氏の感謝の挨拶、イフガオ州知事ドゥリヤナン氏の式典祝賀の挨拶と進み、本会事務局長を務める私、相川がCACEPPIを代表して「小規模水力発電をこの村に設置する事業を通じて、私達のささやかな民間国際協力が実りました。今日の点灯式は、三つの団体が村の皆さんと一緒に築いてきたことによる成果です。この事業に関わった団体の絆がますます強化され、共同・協力して平和な社会を作っていきましょう」と挨拶させていただきました。

式典では、イフガオの村の伝統的衣装を身につけ、遠く昔からこの村に伝わるガン坎(銅鑼)を叩いての音楽に合わせた踊りが圧巻であり、子どもたちが喜び踊る姿は、私達に深い感動を与えてくれました。私達の用意したビッグな豚5頭は、式典のため、前夜から村の若者達によって調理され、この日、式典参加の大勢の皆さんによって平らげられました。

建屋(発電小屋)管理移譲の鍵を渡し、州知事や村の主だった人々、三者の代表による点灯式も無事に終わり、ここに多くの皆さんの協力で作り上げてきた「アバタン村に灯りを点す」事業は遂に完成を見たのです。



写真4 点灯式の模様を報じたマニラタイムス

フィリピン・イフガオ州アシン川流域無灯火村に小規模水力発電を設置する活動

イフガオ・アシン川流域に小規模水力発電を設置する会 事務局長 相川 民蔵

村に与えた自信と心の交流

この事業の完了したことが現地有力新聞で紹介されると、村民たちはこの事業を誇らしく思うようになってきたことは特筆されます。また環境を破壊することなく、小規模ながら、継続的な発電が行えることをこの地域の人達に知らしめたことも大きな成果であるでしょう。町に近い村の電気が停電しても、アバタン村には停電がないことが村の自慢です。

NGOの活動が昨今様々な面で批判を受けています。その多くは貧しくて可哀相、援助してやろうとか、援助金を与えてやろうという発想からきています。意識しているわけではないのですが、結果的には飢えに苦しむ人々や、戦火の渦中に巻き込まれ、家族を失い、投げ出された子どもたち、貧富の差の激しい国にあって貧しい生活を強いられている人々の心を傷つけるような活動です。豊かな生活に慣らされた私達にとっては戒めの警鐘です。私達CACEPPIでは自らの活動を考える上で、足場固めを重視することに努め、特に現場に足繁く通い、顔の見える、村人との交流に力を入れてきました。このため「今までも日本人がこの村を訪ねてきた事はあるが、CACEPPIの皆さんは、私たちの本当の友人だ」と村人が話してくれました。村での慰霊を行った際に、村長がこの峪で無念の死を遂げた日本人



写真5 ビデオを楽しむ子どもたち(アバタン村・キングにて)

への呼びかけを、自ら買って出てくれるまでの信頼を得たことは、私達CACEPPIの財産です。

現地活動にぜひ若い人の参加を

CACEPPIは戦争の悲惨さを語り継ぎ、「墓標なき墓地」への慰霊、水力発電の事業のためにアバタン村訪問を重ね、またこれに合わせ、世界遺産の棚田の見学、村人と共に汗を流す水路の除草作業などに若者を誘い、何度かのスタディー・ツアーを実施してきました。参加した若者は村の昔どおりの生活を体験し、日本での自分達の生活を振り返り見、大いに考えさせられたといい、また持続可能な開発とは頭で考えることではなく自らの行動にあることを知り、真の豊かさとは何かに気付いたともいっており、これも大きな成果のひとつといえましょう。

CACEPPIの会員は、生還者や遺族が中心であり、高齢化し、峪深い村に出かけて行くには体力的に無理があり、何としても若いメンバーの参加が不可欠です。今後、こうした体験をもった若い方々、またこういう活動に関心のある若者にぜひ積極的に現地活動に参加してもらいたいと考えています。

私達はアバタン村の成果をばねにして、現在第二のプロジェクトを、アバタン村の隣村であるワンワン村において実施に入っておりますが、このたびの受賞で大いにはげまされたと感じています。ワンワン村を訪ねた際、トゥッカーカンやトゥルウダンなど、太平洋戦争時、戦地となったアシン川流域の、さらに離れた村をも訪問し、村人と話し合いました。これら三つの村(いずれもファンドアン郡に隣接するティノック郡に入る)はアバタン村同様に僻村であり、特にワンワン村には国立の高校が設置されているものの、無灯火のままとなっています。私達はアシン川流域の村々の実情を考えると、CACEPPIの活動はまだ緒についたばかりであることにますますの責任を感じております。